

The
Monster
of the
Secret Art

by

Motoki Kaido (Mott-sun)



Motoki Kaido (Mott-sun)



Introduction

2012年6月、私は「モンスター」という作品集を発表しました。

この作品集には、私が17～18歳のときに『青春の全て』を捧げて作った作品群を収録しました。それが功を奏したのか、幸いにも世界中のマジシャンからこの作品集は好評を頂き、「Genii」「Linking Ring」「MAGIC」など世界の主要なマジック雑誌でも取り上げていただきました。

あれから約10年。

10年の時を経て、新たな『モンスター』の世界を皆様へお届けしたくなりました。

過去作「モンスター」では、『sleight of hand』にテーマを絞り、ギミックを一切使用しないというコンセプトで作品集を作りましたが、今回の作品集では過去に発表した作品に加えて、ギミックワークやアナザーメソッドも多数登場します。

The Monster of the Secret Art

この作品集を通じて、私が読者の皆様へお伝えしたいこと、それは『Be Yourselfを大切に』ということです。

マジックは不可能を可能にする唯一のエンターテインメントです。

この素晴らしい芸能の中で、1つ1つの作品やテーマをより輝かせるには、誰かが、それらを更新していかなければなりません。更新され続けることで、その作品やテーマは未来でも生き続けるということになり、そこには『歴史』という付加価値がつきます。その結果、マジックの水準や文化レベルも向上し、マジックのアートとしての価値もより高まるでしょう。

そして、そこに必要なものこそが、『Be Yourself』（貴方らしいマジック）です。

この作品集を通じて『Be Yourself』という志向のヒントになれば、この上なく幸いです。

ようこそ。

「The Monster of the Secret Art」へ。

2020年10月6日

Motoki Kaido (Mott-sun)

Contents

Introduction	ii
本書について	vi
用語解説	vii
表記方法	ix
参考映像	xi

Assembly /Matrix

KATSUKARE Steal	3
Easy Quick Four	10
Flash Matrix	15
Another Flash Matrix	24
Flash Back	33
Another Flash Matrix (No Gaffs)	40
Reverse Matrix	48
Back Fire Assembly	57
The TIME on Matrix	67
International Chink a Chink	80
Only Four	89
The Sympathetic Matrix	100

Coins Across

Three Fly	114
Three Coins Across	127
Invisible Traveler	136

Spellbound

One Hand Change	154
Monster Spellbound	161
TEN (鼬)	175
Three Chip Monte	184

Others

Quiz	200
Watch the Watch	210
TSUKUMOGAMI (九十九神)	223

Techniques /Illustrations

No RAVEN	238
KA VANISH	243
NUDE	248
Yin Sound	254
Three Coin Production	259

Card Tricks

Gimlet	266
Anytime Coincidence	271
Monster, My Friend, Mott-sun (Tomoya HORIKI)	293
あとがき	299
最後に君たちへ	305

【本書について】

本書は、私の作品を解説している手順書です。

私の嗜好によって制作された作品集となりますので、必ずしも『実用的』だったり『即戦力』になるというわけではございません。しかし、本書では私が普段から思い描いていた、マジックに対する『秘密』が読者の皆様に共有されるようになっていきます。

私は自身の作品制作において、過度の演出よりもマジック本来の『不思議さ』を大切にしており、観客に『不思議を楽しんでもらう』ことを前提にマジックを作っています。私がマジックに魅了されてからの約15年間、どのようにしてマジックと向き合ってきたのか？という過程も含めて、本書を楽しんでいただけると幸いです。

また、本書は私の動作に合わせて解説をしています。

私は『左利き』となりますので、本書内では左手でのワークが必然的に増えています。

お手数ですが、練習などの際には、演じやすい方の手に変換をしていただき作品を楽しんでください。

【用語解説】

テーブルレイアウトと用語

本書ではマトリクスやアセンブリといった手順を多く解説しています。そこでの位置関係について、下図のように表現しています。



『コインを [左上] に配置します』

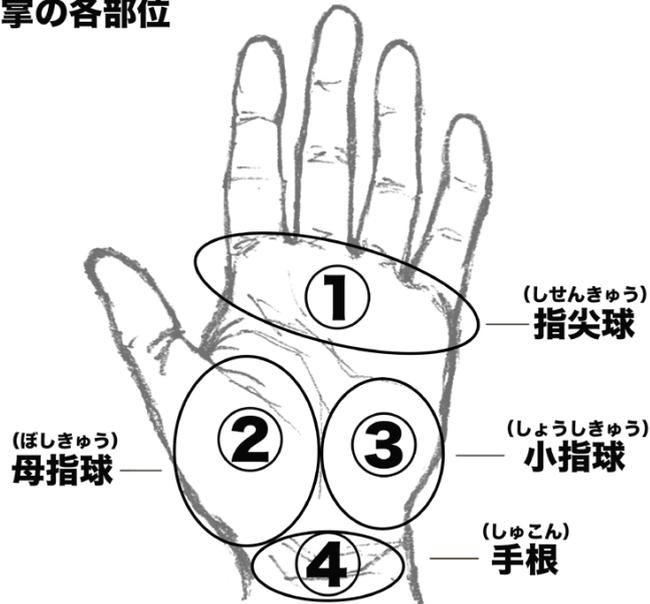
というように □ でくくっている場合、演者から見たマットの左上の隅のことを指しています。

同様に [左上] のコインと表記をしている場合は、演者側から見て [左上] に配置されているコインのことを示しています。

掌の名称

本書では、解説で以下の用語を使用しています。

掌の各部位



①指尖球（しせんきゅう）

各指の付け根の盛り上がっている部分を意味します。

②母指球（ぼしきゅう）

親指の付け根の盛り上がっている部分を意味します。

③小指球（しょうしきゅう）

手首の付け根の小指側の盛り上がっている部分を意味します。

④手根（しゅこん）

手首の付け根の部分を意味します。

【表記方法】

引用符

本書では、文中で使用する媒体名は「」（鉤括弧）をつけて表記しています。

（表記例）「The Art of Magic」

文中で使用する作品名・技法名は“”（ダブルクォーテーションマーク）をつけています。（例）“The Bottom Steal” など。

但し、基礎技法等に関しては読者に知識がある前提で解説しています。よって、フィンガーパームやクラシックパームなどマジックにおける基礎技法と呼ばれるものに関しては読み易さを優先してカタカナ表記のみとしています。

また、口語も「」（鉤括弧）で括っており、強調箇所は『』（二重鉤括弧）で括っています。

クレジット表記

クレジットは各作品の最後に以下のルールで記載しています。

[発行年] 考案者 / 媒体名 / 作品名又は技法名

（例）[1909年] Yank Hoe / The Art of Magic / The Sympathetic Coins

以上のように、私が参考に行っている媒体を原則として表記しております。

考案者不明の場合は考案者不明、未読の場合は【未確認】と表記をしています。

該当箇所の頁数に関しては申し訳ありませんが、版や書籍の言語によって頁数が異なる場合が多かったため、本書では敢えて記載をしておりません。

また、その作品を初めてクレジットする際は、作品の内容やクレジットした理由について記述しています。再度クレジットする場合は、単にクレジットのみとしております。